

手を、とりあうこと。

2018年4月19日

パルシステム東京様「平和カンパ2017年度 年次活動報告書」

●タイ国境 難民キャンプ●



<事業対象地>

タイ国境 7カ所のミャンマー（ビルマ）

難民キャンプ

<事業名>

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプにおける
コミュニティ図書館を通じたノンフォーマル
教育支援事業

<対象者>

2017年度メラ難民キャンプ図書館利用者数

12,002人（第2図書館）

28,296人（第5図書館）

パルシステム東京様の平和カンパに、メラ難民キャンプ第2図書館と第5図書館での教育・文化支援活動、学校、及びコミュニティでの読書推進活動などをご支援頂きました。難民に寄り添うコミュニティ図書館へのご支援、誠にありがとうございました。

●難民キャンプを取り巻く現状●

1984年にタイ国境にミャンマー（ビルマ）難民キャンプが設立されてから、2017年で33年が経ちました。2017年12月現在、9か所の難民キャンプで約10万人が生活しています。2016年10月にタイ政府・ミャンマー政府の合意の下で71人がミャンマーへと帰還しましたが、2017年は両政府合意の下での帰還は進みませんでした。安全、土地や家の確保、就職、医療や教育へのアクセスなど、帰還後の生活が不透明であるため、現在、帰還を希望している難民は少ない状況です。難民キャンプの中では、国際支援の減少に拍車がかかっており、2017年には3団体のNGOが事業撤退しました。そのため、難民キャンプ内の社会サービスが縮小しており、住民の生活は一層厳しくなってきています。まだ見えない将来や苦しくなる生活に直面し、強いストレスや不安を抱える住民が増え、難民キャンプ全体での社会不安が高まっています。教育分野でも教員、教材、建物資材の不足が続いている、教育の質の維持が難しい状況です。



<食糧配給を待つ人々>



<メラ難民キャンプの小学校の授業>





手を、とりあうこと。

●事業目標と実施した活動●

事業目標
カレン難民委員会教育部会との協働により、コミュニティ図書館活動を通して、難民キャンプの住民が将来の選択をするための知識・技術と帰還に関する情報を習得する。
活動
<p>メラ難民キャンプはタイ国境にある 9 カ所の難民キャンプの中でも最大で、2017 年末現在、約 36,700 人が生活をしています。</p> <p>①コミュニティ図書館活動</p> <p>2017 年も、子どもから高齢者まで、多くの住民がコミュニティ図書館を利用しました。図書館員への技術面のサポートを強化しており、図書館での児童サービスの質が徐々に向上してきました。</p> <p>②図書館からの情報提供活動</p> <p>ご支援いただいた第 5 図書館には、2 台のパソコンを設置しています。1 年間で 258 人がパソコンを通してミャンマー国内や難民帰還に関わる様々な情報を収集しました。また、図書館の前には、情報掲示板を設置しており、ミャンマー国内のニュースや図書館の情報を住民に広く周知しました。</p> <p>③学校への移動図書箱活動</p> <p>移動図書箱活動を通して、保育所、小学校を対象に授業に活用できる絵本を配布した他、中・高等学校、大学向けに、ミャンマー国内で購入した各科目の学習参考書や辞書、英語のおはなし本を提供しました。2017 年は難民キャンプ内の約半数の学校がこの移動図書箱サービスを利用しました。</p> <p>④図書館青年ボランティアによる読書推進活動</p> <p>メラ難民キャンプでは、40 人の図書館青年ボランティアが活動しています。2017 年 5 月に研修を受けた後、難民キャンプ内の様々な行事で人形劇を中心としたおはなし会を開催しました。週末には、キャンプ内の 19 地区で子どもたち向けの読書クラブを開催しており、図書館から遠くに住む子どもたちにも読書の機会を届けました。</p>

モー・シー・タウちゃん 14 歳、メラ難民キャンプ第 5 図書館



私の名前はモー・シー・タウです。14 歳です。キャンプ内の第二中学校に通っています。私は叔母とともにこのキャンプに住んでいます。私には兄弟姉妹が合わせて 5 人いて、8 人家族ですが、家族はミャンマーのカレン州にいます。学校で勉強する科目では理科が好きです。様々な知識をより得られるからです。時間のある時には友達と会ったり、サッカーをしたり、本を読んだりしています。図書館には週に数回行きます。図書の中では特に絵の入っている本が好きです。そして私の好きな活動は、歌、踊り、そしてお絵かきです。図書館員さんはとても優しいです。将来は、大学レベルまで勉強を続けたいです。そして医者になりたいです。

皆様、ご支援いただきありがとうございます。この図書館はとても便利で、有益だと思います。もし母国の村に帰ることになつても、このような図書館があつてほしいと思っています。

